上宮津公民館だより

第76号

令和4年3月

上宮津
地区公民館

巡り来る春に 今一度心を寄せて

上宮津地区公民館　館長　智　原　芳　明

ここ数年は温暖化を感じさせるような比較的穏やかな気候が続いていましたが、今年は大陸から周期的に次々と寒波がやってきて、雪の中での生活を余儀なくされる厳しい冬でありました。そのために鉄道や道路に乱れを生じる事が度々あり、通院や買い物など日常生活に支障が出ました。

また、降り積もった雪の除雪作業は高齢者や体力の弱い方にとっては辛い日々であったと思います。

公民館は常備してある除雪機を使って行いましたが、すでに遊休施設となった学校やＪＡ、保育所の一帯は、雪が降ると一面雪野原になるので日によっては半日仕事になることもありました。ＪＡの倉庫は上宮津有償バスの駐車場となっていることもあり、ドライバーさんの手を借りて切り抜けることもありました。

このような冬も啓蟄が過ぎると雪の下には既に草の新芽が出始め、ホームセンターの店頭にはジャガイモの種イモが並び始めるなど、少しずつ春の気配がしてきました。

春の訪れは年によって多少の差はあっても確かに巡り、新たな出会いと希望や可能性を含んだ待ち遠しい季節です。

しかし、今、私たちを取り巻く現状は極めて残念な出来事が多いことです。

一つには和やかな雰囲気を世界に発信し友好ムードの高まったスポーツの祭典冬季オリンピックの最中、一転して世界を恐怖に陥れた武力紛争は一触即発核の脅威に直面するまでに発展して世界は混迷の危機にあります。

二つには、依然として終息の兆しが見えない新型コロナ感染症であります。

緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の継続的な実施は公民館活動にとりましても大きな影響を受けました。

時間と人数を制限して辛うじて会議だけの利用に終始したことは残念な限りです。

コロナウイルスのオミクロン株は旧デルタ株に比べると感染力は強い半面、重症化率は少ないと言われていました。しかし、今では感染の拡大に伴って高齢者を中心に死亡者数が増加して危険な状況になっています。宮津市の感染者情報が連日報告される中、若年層の増加が特徴的になっています。公民館は地域にあって最も利用者の多い施設であることからクラスターが起こらないよう細心の注意を払っているところです。

国による制限の緩和の方向が示される中で、これからはコロナと共存する社会に向かいつつありますが、公民館の利用につきましては、今しばらくこれまでと同様にマスク着用、手の消毒、検温などをお願いすることになると思いますが、ご理解いただきご協力をよろしくお願いします。

コロナ禍の一年間を振り返りみて

上宮津自治連合会長　粉川宗久

一　長期に亘るコロナ禍

令和三年度の京都府下における「緊急事態宣言」（以下、『緊急』と記します。）の指定及び「まん延防止等重点措置」（以下、『まん延』と記します。）の適用についてそれぞれの期間を調べてみました。

まず、令和三年四月二五日～六月二〇日まで『緊急』、六月二一日～九月三〇日まで『まん延』期間がありました。その間、連続して五ヶ月を上回る期間でした。その中で、東京オリンピック及びパラリンピックがそれぞれ、七月二三日～八月八日及び八月二四日～九月九日に無観客で開催されました。

令和四年になりまして、新種のオミクロン株が猛威をふるい始めました。京都府下では、『まん延』が一月二七日～三月二一日までの期間に適用されます。約二ヶ月間であり、通算して一年間に七ヶ月間の長期に亘り大きな影響を受けました。

二　地域行事等の休止が続出

地域行事等への影響ですが、三年度に入ってまず上宮津祭り（四月）でした。各神社での例祭は神事のみの実施となりました。駅伝競走大会(六月)、盆踊り大会（八月）、敬老会（九月）、運動会（十月）、農業文化祭（十一月、作品展示のみ）、学校ミュージアム（十一月）等々、やむなく中止となりました。

三　実施された行事・地域活動

そうした状況の下、旧小学校グラウンド一斉清掃（六月及び九月）、大手川クリーン作戦（七月）が、検温実施及び三密防止等、感染拡大防止に務めながら実施されました。

特筆すべき活動は、地域ビジョン策定会議から、この三月に「上宮津地域ビジョン（案）の提案及び広く意見を求めていただいている取組みです。二年余りに亘り、地域の若い方へのヒヤリングを始め、アンケート調査、ワークショップの開催などを経て策定されたものであり、策定会議が一体となり全力で取り組まれたことに、心から謝意と敬意を表します。

また、２０１３年に制定された地域ビジョンは、ひとえに地域活動の指針として、この十年間の活動に大きな支えとなってくれました。今回の新ビジョン（案）がこれからの十年間の主役となる訳ですが、現ビジョンに支えられ大きくなった地域活動は、更に根を張り大樹となりこれからの十年間成長し続けることでしょう。

以上、多くの大切な地域活動等がやむなく休止になる多難な一年間の概況です。

四　公民館での「囲碁の集い」活動の紹介

ここで少し本題からそれますが、公民館の一利用者でもありますので筆者から「囲碁の集い」についてご紹介をします。

毎月第一・第三土曜日の午後一時～三時に地区公民館で行うこととしています。新型コロナ感染症拡大防止のため、幾度も公民館の利用休止・制限を受けながら続けてきまし

た。現在、メンバーは女性三人及び男性二人です。囲碁のルールを覚えることからスタートです。いずれは対局が出来るところまでを目指して勉強を続けています。一進一退を繰り返しながら、少しずつ囲碁の面白さが分かりかけてきたという状況です。着手点に大小の差はあるのですが、気にせずに「自分の行きたい所に打つ」ことが何より大切なのです。勝敗は二の次です。

白石と黒石とを交互に打ち進めますので、繰り返し着手点を自分で判断します。判断するためには頭を使いますが、これが老化防止等にとても効果的であるようです。囲碁を人生の友にして、これからを楽しく暮らせたら最高です。興味のある方は、一度公民館を覗いて下さい。

お待ちしています。

2022　3月例会

2020　2月会議

春に向かう一筋の道

冬の晴れ間が少なく、消えていく雪を追っ駆けては次の雪がまた降るという天気が続きました。

そのせいもあって知らぬうちに出不精が習慣化し、外で体を動かすことが無くなっていました。

そんな生活で体が怠けきっていましたので、「もう長靴でなら歩けよう」と思い立ち散歩に出かけてみました。

家の周りにはまだ雪がかなり残っていましたが、府道はきれいに除雪されており、車の通行には支障のない状態になっていました。

「おや?」そこで気が付いたのは、路肩に黒い一筋が続いていたのです。

『歩道の雪が
　　掻いてもろたる』

これまで見たことのない光景を見て驚きました。

白い雪に一筋の黒い線が生野神社からか山に向かってのびています。

これまでから府道沿いの歩道は除雪をされたことがないので、自転車や歩いての往来は車道の車を気にしながら通らなければなりませんでした。

どなたの善意でしてもらったのか分かりませんが、これまでにない計らいにとても感動し、心温まるうれしい出来事でした。

活動【ボクのミカタ】

堀　未季

皆さま、こんにちは！小田7区の堀　未季です。私は上宮津保育所で、主に発達障害のお母さんを対象とした活動【ボクのミカタ】をさせて頂いています。今日は私の家族、そして活動について、少しお話しさせて下さい。

２０１８年。子ども達３人と共に、東京から祖母の家に移住しました。上宮津の、一歩外に出れば遊びがいっぱいの豊かな自然環境。いつも気さくに声を掛けて下さる地域の人との繋がりが大好きで、いつか移住したいと思っていました。大好きな場所で、楽しかった経験を今は子ども達にも感じてもらえてとても嬉しいです。

初めての子育て、大変だなと思っていたことや子どもの行動は、他のお母さんと話すうちに私は皆と違った子育ての悩みを持っているんだと感じるようになり、子どもの苦手を練習するため、療育施設に通うことになりました。そこで出会った同じ境遇のお母さん達と初めて共感出来る子育ての話しができたことが、とても嬉しかったのを覚えています。

今は子ども達も大きくなり、昔より余裕もできましたが、成長と共に悩みも変化する中で親子で向き合っています。

宮津でも、お母さんが話せる場が欲しくて探しましたがなかなか見つけられず。無いのなら、お母さん目線のこんなの欲しい！を作りたいと思い始めました。その思いを周りの方々に手助けして頂き【ボクのミカタ】の活動が出来ました。今は、少しでも多くのお母さんや地域の方にまず知って頂く。ということを心掛けています。

〝同じ境遇だからこそ分かることがある〟

同じ目線で、分かる！と共感し合えることでホッとしたり、気持ちの充電ができたら良いなと思っています。

いつか、保護者向けのペアレントトレーニングや講演会。子どもの居場所や、得意を伸ばせることなども出来たら素敵だなぁと、想いは沢山ありますが。出来ることから少しずつ。今後も、来てくださる方々を大切にして長く続けていきたいと思います。

【ボクのミカタ】

＊ボク

子ども自身。

周りから見てのボクのこと。

＊ミカタ

味方や、見え方、導く、見出す

開催日は不定期で、毎月の予定をInstagram・Facebookの**ボクのミカタ**のページでお知らせしています。チラシも作り始めていますので、完成しましたら地域の皆さまにもお手にとって頂けるようにしたいです。また、ご質問やご要望があればお気軽にお声掛けして下さい。何もなくても、お声掛けしてもらえると喜びます（人とお話しするのが大好きです☆）

この活動をするにあたり、子どもと話しをしました。その答えは『何があっても自分は自分に変わりないから。一人が動き出せば、誰かがきっとついて来てくれるよ』と、逆に私の背中を押してくれました。そんな子ども達がいることにも感謝をしながら活動を続けていきたいです。